

# 【 CT 部門 】

## ● CT 検査とは？

CT (Computed Tomography: コンピュータ断層撮影) とは、X線を発生させる管球とX線を受ける検出器が対を成してリング状の中を回転し、データを収集して人体の輪切りの画像をコンピュータで作成する断層撮影装置です。検査はベッドに寝たまま行います。検査内容や撮影部位によって、息止めをしたり、造影剤を使用する場合があります。

技術の進歩により、広範囲を高速撮影でき、また最適なタイミングで撮影できるため、体を切ることなく、より詳細な検査を行えるようになりました。これらの画像データから様々な角度の断面像、3D画像(骨・血管・臓器など)を作成し、患者さんでもわかりやすい詳細な診断画像を提供します。

また、2021年5月に導入されたIQon Spectral CTは2層検出器を搭載したDual Energy CTであり、従来のCT画像に加え、X線エネルギーの特性を利用した様々な画像が、すべての検査で作成することができます。これにより、複合的な画像解析結果を得られるようになりました。

## ● 装置 (使用機器)

### CT 装置

[64列(128スライス) IQon Spectral CT (Philips)]    [128列(256スライス) Brilliance iCT (Philips)]



[80列マルチスライスCT Aquilion™ Prime (TOSHIBA)]



## 造影剤自動注入装置（インジェクター）

[デュアルショット GX / デュアルショット GX7 (根本杏林堂)]

## 画像処理用ワークステーション

[Ziostation2 (ザイオソフト)]

[AZE Virtual Place Raijin (AZE)]

### ● 撮影方法・検査の流れ

- 21番で受付をし、22番のCT室にお越しください。また、CT室につきましたら、CT室のスタッフに受付表を渡してください。造影剤の同意書をお持ちの方は、受付表と一緒に渡してください。
- 準備ができましたらスタッフが受付番号でお呼びしますので、近くの椅子に腰掛けてお待ちください。
- CT装置の寝台に寝てもらいます。この時、検査内容によって体位を変えさせていただきます。
- 放射線技師が、撮影時の息止め(息を吸って止める、息を吐いて止める、など)や撮影回数などを説明します。  
造影剤を使用する検査の場合は、看護師が血管確保を行い、造影剤を注入します。
- 撮影終了後、CT装置の寝台から降りていただき、検査が終了になります。  
造影剤を使用した場合は、副作用等が出ないかしばらくの間確認してから各外来、入院病棟に戻っていただきます。
- 検査時間は約15分程です(検査内容によっては15分以上かかることもあります)。

### ● CT検査の注意事項

撮影範囲内に衣服の金具、メガネ、補聴器、ヘアピン、ピアス、入れ歯、金属性の装飾品等が含まれる場合は外していただきます。

### ● 被ばく線量

当院のCT検査における被ばく線量は以下ようになります。

各撮影部位	当院		DRLs2020	
	CTDIvol (mGy)	DLP (mGy・cm)	CTDIvol (mGy)	DLP (mGy・cm)
頭部	58	910	77	1350
胸部	11	525	13	510
腹部	13	811	18	880
胸腹部	12	1006	16	1200
肝 dynamic	14	1897	17	2100
冠動脈	61	1120	66	1300

※DRLs2020：医療被曝の線量指標を示した診断参考レベル（標準体格：50～70kg）

※胸部DLPに関して…当院では胸部でも甲状腺・頸部リンパ節なども読影対象としています。そのため撮影が広範囲のためDLPの値が高くなっていますが、診断参考レベルとほぼ同等の値です。